



かがやく 150 周年 こから未来へとび立て 平和 希望 努力の 小原田小  
**「平和 希望 努力」小原田小だより**

令和6年度 No.46  
 令和7年3月6日  
 郡山市立小原田小学校  
 文責 校長 佐久間誠



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

**令和7年度の学級数について**



先日の PTA 奉仕作業の後にもお話しさせていただきましたが、もう少し詳しい状況を知りたいというお話をいただきましたので、令和7年度の学級数についてあらためてご説明いたします。

現在、令和7年度の学級編制を行っています。学級数の確定に向けて、県・市教育委員会と連携して取り組んでいるところです。しかし、現在、教員の数が足りず、学級担任の確保が難しい状況にあります。

全国的な教員不足の状況は、次のことなどが原因となっています。

- 教員志願者数が全国で急激に減少している。福島県でも教員志願者数が大幅に減少している。
- 教員志願者数の減少とともに、講師の先生の数も減少している。
- 令和6年12月20日に報道されたとおり、精神疾患による教員の病気休職者の数が全国で過去最大の7,000人を超える状況になっている。

国の法律では、36人以上で2学級、71人以上で3学級を編制するように示されています。しかし、福島県では、子どもたちの学習環境を整えるため、教員を数多く確保し、福島県独自の少人数教育を進めることができるように工夫して取り組んできました。そのため、国の法律では2学級の学年でも、福島県ではこれまで3学級で学習を進めることができました。

ところが、現在、教員が足りない状況になってしまい、これまで通りの教員の数を各学校に配置することが困難な状況になっています。

教員の不足は、そのまま担任の不足につながり、学級数に影響することになります。そのため、現段階では、福島県独自の少人数学級を進めることが難しく、国の法律で定められているように、学年の児童数が71名に満たない学年では、2学級にせざるを得ない厳しい状況です。

このように、学級数は、国の法律、福島県の施策、そして県教育委員会で配置する教員の数で決定します。現在、県・市教育委員会では、できるだけ子どもたちがよりよい環境で学習できるように、教員の確保に向けて努力しているところですが、厳しい状況です。

子どもたちの思いや保護者の皆様の願いと同じように、学校や県・市教育委員会でも、少人数学級により子どもたちが落ち着いて学習できるようにしたい、一人でも多くの先生方が子どもたちに関わることができるようにしたいと考えていますが、教員の確保（担任の確保）が困難な場合は、現在3学級ある学年でも、2学級にせざるを得ない可能性が非常に高くなっています。

これからもぎりぎりまで努力を続けていきますが、学級減になる場合は、子どもたちに事前に話をするために、3月17日（月）に子どもたちと保護者の皆様にお知らせできるようにしたいと考えています。

**ありがとう6年生、頼もしかったよ5年生！**

2月27日（木）に、今までお世話になった6年生に「ありがとう！」の気持ちを込めて、6年生を送る会を開きました。1年生から5年生までが、一生懸命に演技し、感謝の気持ちを伝える姿を見て、ジーンとしました。6年生のみなさん、私たちの小原田小をまとめてくれて、本当にありがとうございました。小原田小で残りの日々、たくさんの思い出をつくってください。

また、送る会を企画・運営した5年生の姿を見て、とても力強く思いました。5年生のみなさん、これからは5年生のみなさんが、この小原田小をまとめていく番です。5年生のみなさんの活躍、頑張り期待しています。

**5年生のみなさん、どうぞよろしくお祈りします！**

